

世田谷区

基礎情報

【人口】 903,346 人 【世帯】 463,632 世帯（平成 27 年国勢調査より（総務省））

【母子・父子世帯数】

母子・父子世帯数 3,036 世帯（母子世帯 2,755 世帯、父子世帯 281 世帯）

（再掲）母子・父子世帯数（他の世帯員がいる世帯を含む）3,726 世帯（母子世帯（他の世帯員がいる世帯を含む）3,307 世帯、父子世帯（他の世帯員がいる世帯を含む）419 世帯）（平成 27 年国勢調査より（総務省））

児童扶養手当受給者数 3,409 世帯（平成 27 年度実績 保健福祉総合事業概要）

生活保護母子世帯 349 世帯（平成 28 年 3 月現在）（世田谷区調べ）

概要

○経済的事情で学習塾に通うことができない子どもや、家庭内での学習が困難な環境にある子どもを対象として、学習環境を提供し、学習習慣の定着と苦手科目の克服、学力の向上を図るために「かるがもスタディールーム」を設置した。大学生や社会人のボランティアがマンツーマンや少人数で対応している。また、「かるがもスタディールーム」の利用から、居場所づくり支援など、他の事業での学習支援への移行を促している。

○アンケート調査から、ひとり親家庭への支援事業に関する当事者の認知度の低さが明らかとなった。相談時間の確保や自ら情報収集を行う余裕のないひとり親家庭のための相談機能の充実ときめ細かな情報提供が求められており、区独自で作成したリーフレット配布とメールマガジンの配信を行っている。リーフレットは様々な機会を利用して配布方法を充実するとともに、父母が持ち運びやすいハンドバックに収まる大きさにしている。窓口の職員も、対象者に説明がしやすくなったと評価している。

○ひとり親家庭の就労支援充実の一環として、在宅就労を目指すひとり親家庭を対象とした託児付き就労支援講座（パソコン講座）を開催している。パソコン講座はニーズが高く、就労に結びついた件数も多い。

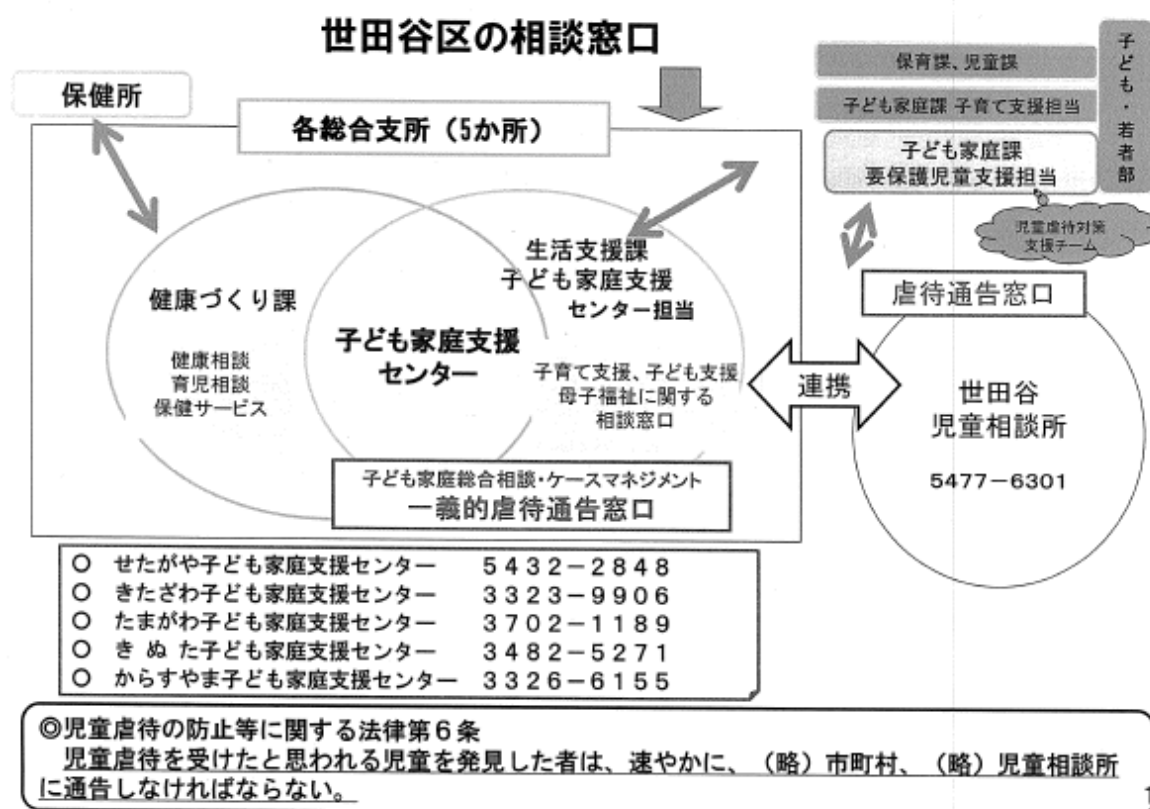
○父母も子どもも自分のことを良く知り、自分で今後の生活設計を描いていくことが必要である。そのため、東洋大学と協働して、新たな自立支援プログラムを開発している。自立支援プログラムを通じて、父母、子どもそれぞれが抱えている課題を自覚し、克服するための力を養うとともに、支援する側である職員の実践力の向上を図り、総合的な支援のあり方を検討している。

【世田谷区におけるひとり親相談の窓口体制】

世田谷区のひとり親相談窓口は、区内 5 箇所の各総合支所にある。各総合支所の健康づくり課と生活支援課子ども家庭支援センター担当の 2 部署が、子ども家庭支援センターの機能を担っており、前者が健康相談・育児相談・保健サービスを、後者が子育て支援・子ども支援・母子または父子の福祉に関する相談窓口を担っている。

区役所の子ども・若者部、保健所、世田谷児童相談所が子ども家庭支援センターを中心に連携を図るとともに、子ども・家庭課が世田谷児童相談所と子ども家庭支援センターとの間の連携をサポートしている。

【参考】子育て関係の世田谷区の相談窓口（児童虐待相談窓口の例）



注) 児童虐待の相談窓口に関する体制図であるが、子育て関係全般の体制と同様である。
出典) 世田谷区資料

【世田谷区におけるひとり親支援事業全体像】

世田谷区では、来年度には外国人を含め人口が 90 万人を超える見込みとなっている。また、平成 14 年度以降、出生数と 14 歳以下の年少人口が増加しており、0～5 歳児の人口増加率が大きい。0～3 歳児の在宅子育ての割合が 60%以上と高く、待機児童も多い現状にある。子どもの人口が多いという特徴から、世田谷区では、子ども施策に力を入れてきた。

ひとり親家庭に関しては、世帯数は平成 17 年度から平成 22 年度にかけて減少していたものの、医療費助成、手当での受給者数が平成 25 年度まで微増傾向にあったことから、生活困窮家庭は増加していると考えられた。

平成 20 年度に、「世田谷区子ども計画（後期計画）」策定にあたってアンケート調査を実施したところ、ひとり親への支援制度の認知度が低く、情報提供のさらなる強化の必要性が課題として挙げられた。また、これからの子育てについて、「子どもと協力しながら」と答えた人の割合も高く、家庭内だけで完結し地域から孤立してしまう可能性も示唆された。ひとり親の心配事や悩み事に対する設問では、子どもの学力、子どもの進路について回答した割合も高く、学習環境に課題を抱える家庭も多いと考えられた。

このような調査結果を受けて、ひとり親・生活困窮家庭等の子どもの支援の施策体系として、①ひとり親家庭、生活困窮者家庭等の子どもの自立に向けた支援の充実、②情報提供・相談機能の充実、③就労支援の充実、④子育て・生活支援等の充実を設定し、多様な支援事業を実施

している。

ひとり親・生活困窮家庭等の子どもの支援の施策体系

施策体系	具体的施策
①ひとり親家庭、生活困窮者家庭等の子どもの自立に向けた支援の充実	・学習支援事業かるがもスタディールーム
②情報提供・相談機能の充実	・メールマガジンの配信 ・リーフレットの作成
③就労支援の充実	・自立支援プログラム ・教育訓練給付金 ・高等職業訓練促進給付金 ・就労支援事業
④子育て・生活支援等の充実	・情報提供の強化 ・学習支援の拡充 ・親子の学び直し ・母子生活支援施設入所者への支援 ・養育費相談会の実施
その他	・東洋大学との協働研究

出典) 世田谷区資料を基に作成

世田谷区では、多様な事業を展開しており、支援のメニュー自体は多いものの、総合的に対応する必要のあるひとり親家庭に対しては十分ではない、という現状にある。今後は、総合的な支援とともに、支援員への研修、子ども施策や母子保健との連携、母子に関わる専門職の充実に必要としている。

(1) 大学生や社会人のボランティアが対応する子どもの学習支援「かるがもスタディールーム」

①経済的事情で学習塾に通えない子どもや家庭内での学習が困難な環境にある子どもの支援

経済的事情で学習塾に通えない子どもや、家庭内での学習が困難な環境にある子どもを対象として学習環境を提供している。学習習慣の定着と苦手科目の克服、学力の向上を図ることを目的に設置した。教室形式で各教室 20 名を定員とし、大学生や社会人のボランティアがマンツーマンや少人数で対応している。より多くの子どもがサービスを利用できるよう、登録は最長で 2 年と定めている。

②教室の増設、長期的な学習支援、支援者側へのサポートなどで次第に充実

平成 28 年度は生活困窮家庭の受け入れを、区内 5 箇所全ての教室で可能とし、開催している。いずれかの教室で 20 名の定員を超える応募があった場合には、他の教室を紹介するなどの対応をしている。かるがもスタディールームの登録は 2 年に制限しているため、終了後は、居場所づくり支援など他の事業での学習支援の場を紹介している。また、子どもたちへの支援だけでなく、支援者側へのサポートも行っている。2015 年度は学生および社会人ボランティアに対し、子どもたちへの接し方やストレスを抱え込まないよう、ボランティア研修を 6 回実施した。この研修はボランティアへ参加する姿勢や本事業の主旨を理解することを目的としている。

③子供への周知、ボランティアへの支援が課題

課題として、保護者および子どもに対して、教室を紹介することの難しさが挙げられる。総合支所窓口の職員から父母に学習室を紹介しても、子どもまで伝わらない場合がある。また、ボランティア等支援者側へのサポートは、取組がもっと社会の中で高い評価を得る事が出来れば、就職活動等にも活かせると感じているが、評価を得ることは難しい現状である。

（２）複雑な支援事業に関する情報をきめ細かく提供し、各ひとり親家庭の事情に応じた相談を充実

①ひとり親家庭におけるひとり親支援事業の認知度の低さの解消を目的に

平成 20 年度・25 年度に実施した「世田谷区子ども計画」策定にあたってのアンケート調査から、ひとり親家庭への支援事業に関する当事者の認知度の低さを認識した。相談時間の確保や自ら情報収集を行う余裕のないひとり親家庭に向けた相談機能の充実と、きめ細かな情報提供が必要である。以前から世田谷区では区独自で作成したリーフレット配布とメールマガジンの配信を行っていたが、平成 28 年度からリーフレットの配布を拡大し、情報提供の強化を図っている。

②配布方法の充実と父母が持ち運びやすい形体のリーフレット

リーフレットは、医師会を通じ、区内の小児科・産婦人科でも配布しているほか、コンビニでの配布も検討している。また、ひとり親になったときに支援へとつながられるよう、区役所の離婚届の窓口での配布に加えて、乳児期家庭訪問時に携帯し、ひとり親家庭だとわかった場合には、父母にわたすよう工夫している。リーフレットの大きさはハンドバックに収まりやすい大きさであり、父母が持ち運びやすい形体である。窓口の職員はひとり親家庭への支援情報を一つにまとめたリーフレットを作成したことで、対象者に説明がしやすくなったと評価している。

アンケート調査で平成 20 年度と平成 25 年度を比較すると、どのひとり親支援事業も認知度は上昇しており、メールマガジンや、リーフレットによる効果であると考えられる。

（３）在宅就労を目指すひとり親家庭を対象とした託児付き就労支援講座（パソコン講座）の開催

①ニーズの高いパソコン講座を実施

ひとり親家庭の自立を促進するには、子どもへの支援と同時に親への支援を講じる必要がある。そのための方策の一つとして、ひとり親の就労支援を充実させるべく、就労を目指すひとり親家庭を対象とした託児付き就労支援講座（パソコン講座）を開催している。

②就業に結びつく自立支援プログラム策定（世田谷区独自事業）

母子家庭・父子自立支援プログラム策定事業（自立支援プログラム策定）では、平成 27 年度は事前相談 21 件のうち、プログラム策定件数が 11 件、さらにその中で就業に結びついたケースが 7 件であった。母子家庭および父子家庭自立支援教育訓練給付金事業実績については、給付金の増額もあったことから、申し込み件数が増え、平成 28 年度 10 月 31 日時点で事前件数 8 件、講座指定申請数 4 件、支給決定数 1 件である。

就労支援講座（パソコン講座）については入札で委託業者を選定し、実施している。

（４）親子ともに自分を知って今後のことを考えるための自立支援プログラムの開発（東洋大学との協働研究）

①ひとり親家庭の親子が抱える問題への総合的な支援のための自立支援プログラムの開発

地方自治体が実施しているひとり親家庭への支援は、現状では経済的支援と就労支援を中心とした自立支援にとどまり、母子が抱える健康問題や生活困窮への対応など総合的な支援にまで至っていない。

ひとり親家庭の父母も子どもも、自分の置かれた状況を客観的に評価する余裕がなく、今後の生活設計ができずにいることが多い。そのため、ひとり親家庭の父母も子どもが自分のことを知り、自立するための「自立支援プログラム」を開発している。

現在、東洋大学と協働でひとり親家庭に対する効果的な自立支援プログラムを開発し、その実践を通じて、ひとり親家庭の自立支援を進めるための総合的な支援のあり方を検討するとともに、支援する側である職員の実践力の向上を図ることを目指している。

具体的には、ひとり親家庭に対する効果的な自立支援プログラムの開発と、支援する側の職員を対象とした研修や事例研究を実施している。ひとり親家庭の抱える問題に対する理解を深め、より効果的な支援を行うためのスキルの習得と全体のソーシャルワークの向上を図っている。さらに、ひとり親家庭の父母と子どもそれぞれ抱えている課題を自覚し、克服する力を養う実践と研究を行っている。

②「いまの自分を知るためのシート」を使って、自分のことを知って今後のことを考える

生活保護受給母子・父子家庭の親子に対して、「いまの自分を知るためのシート」「セルフチェックシート」を配布している。シートは親子自身が記入し、自身の今と今後について考えるよう促している。子ども用の「いまの自分を知るためのシート」（巻末参照）では、自分のまわりにいる人およびその人との関係性や、自分の生活習慣、生活の充実度、進路について、母親用の「セルフチェックシート」では、自身の健康状況、生活スキル、就労意欲、人間関係、困りごと、目標などについて記入する。次年度も同様のシートに記入し、前年度との比較をしながら考えられるようにしている。

【参考】いまの自分を知るためのシート（中学生用）

（中学生用）

いまの自分を知るためのシート①

～生活改善のための基礎情報～

作成日 20 / /

書きにくいところは書かなくてもかまいません。また、空いている部分に関連する内容を補足して頂いてもかまいません。わからないところは、ボランティアの先生に随時聞いてください。

名前	女 ・ 男	学校名・学年
住所		
一緒に暮らしている人	母（ ）、父（ ）、姉（ ）、妹（ ）、兄（ ）、 弟（ ）、祖母（ ）、祖父（ ）、その他（ ）	
現在の住まいについて	引越回数 （ ）回	
おこづかい	月 円 / もらっていない	
携帯・スマホ代	月 円 / 知らない / 持っていない	
部活動	部 / 入っていない	
平日夜8時頃に 家にいる大人	全員いる / 誰かしらいる / いない	
学習支援の利用 開始時期	年 月 頃から	
この学習支援に はじめて来た きっかけ （○はいくつでも）	（ ）すでに利用している友だちに勧められた （ ）学校で案内が配られた	
	（ ）家族から勧められた （ ）先輩から勧められた	
	（ ）兄弟・姉妹が利用していた （ ）以前から知っていて、利用できる年齢になったため	
	（ ）テレビや新聞等で知り、行ってみようと思った （ ）学校の先生から勧められた	
	（ ）区役所から勧められた （ ）WEB 等を使って自分で探した	
	その他 （ ）	
学習支援の利用 目的 （○はいくつでも）	（ ）自宅に勉強する部屋がないため （ ）友達がいるため	
	（ ）兄弟や近所の声がうるさいため （ ）集中できるため	
	（ ）スタッフと話したいため （ ）食事が出るため	
	（ ）親から来るよう言われているため （ ）落ち着くため	
	（ ）勉強を教えてくれるため （ ）家はイライラするため	
	（ ）学校（の先生）から行くように言われているため （ ）勉強以外の活動があるため	
現在参加している活動	（ ）好きなことができるため （ ）自分が役に立てる機会があるため	
	その他 （ ）	
現在参加している活動	地域の活動（ ） 学習支援で紹介されたこと（ ）	

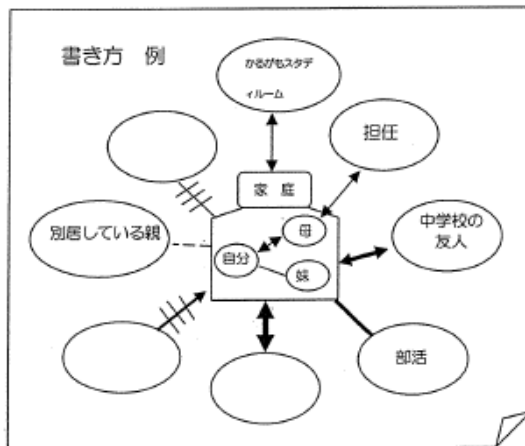
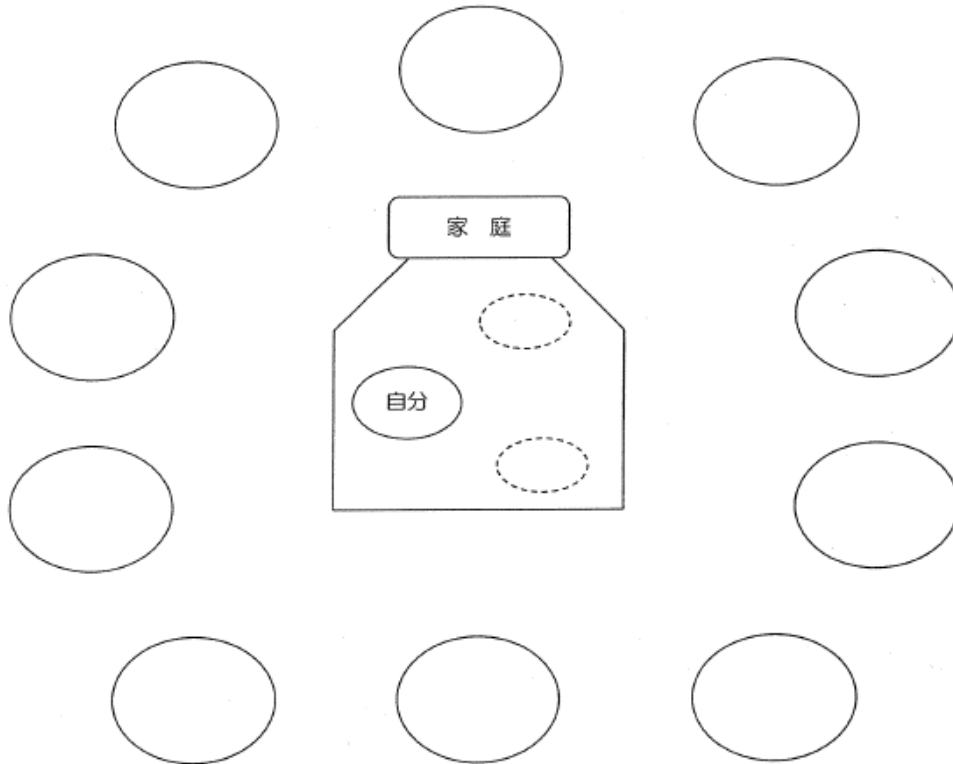
(中学生用)

いまの自分を知るためのシート②
～関係改善のための見える化～

名前 _____

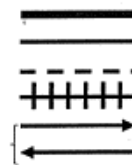
作成日 _____ 20 ____ / ____ / ____

Oが足りなければ書き足してください。わからないところは、ボランティアの先生にいつでも聞いてください。



記号の種類

- ①強い関係
- ②普通の関係
- ③弱い関係
- ④ストレスのある関係
- ⑤関係の方向性



あなたのまわりにいる人、施設などを自由に書いてください。

例：同居している親、別居している親、親の職場、近所の人、担任教師、部活メンバー、先輩、後輩、店（コンビニなど）、兄弟姉妹、かろがもスタディールーム、親戚、警察、中学校の友人、小学校の友人 等

(中学生用)

いまの自分を知るためのシート③
～生活充実度チェック1～

名前 _____

作成日 20 / /

生活習慣を改善してよりよい生活を送れるように、下記のチェックリストで現在の状況を確認してみましょう。

I. 次のようなことを、あなたはやっていますか。当てはまるものに○をつけてください。

項目	やっている	やっていない	当てはまらない
朝決まった時間に起きる			
朝食・昼食・夕食をきちんと食べる			
食事をつくる(ご飯を炊くも含む)			
お風呂に入る			
お風呂の掃除をする			
自分の部屋の掃除をする			
自分の部屋以外の部屋の掃除をする			
ふとんやベッドで寝ている			
ふとんをしく・たたむ			
毎日着がえている			
洗濯(洗濯ものをたたむも含む)をする			
自分のクツを洗う			
おつかい・買い物をする			
妹や弟の世話をする			
親の手伝いをする			
祖父母の手伝いをする			
生きものの世話をする			
新聞などを取りに行く			
ゴミを出す			
小遣いの範囲でやりくりする			
あいさつをする			
翌日の学校の準備をする			
試験に向けた学習計画を立てている			
夜中に友達と携帯で電話やゲームをする			
親と自分の進路について話をする			
友達と自分の進路について話をする			
親や仲の良い友達と性に関する話をする			
通学している			
病気(けが・歯痛)のとき病院に行く			

II. ふだんの生活の中で、次のようなことがありましたか。当てはまるものに○をつけてください。

項目	ほとんどない	あまりない	どちらとも言い難い	たまにある	よくある
誰かのために何かしてあげたいと思う					
何かに夢中になる					
楽しく充実していると感じる					
本を読んだりテレビを見て感動する					
「疲れた」と感じる					
何をやっても嫌になる					
お金さえあればよいと思う					
何もかも壊してやろうと思う					

(中学生用)

いまの自分を知るためのシート④

～生活充実度チェック2～

名前 _____

作成日 20 / /

Ⅲ. この学習支援の場はあなたにとってどういった場所ですか。当てはまるところにそれぞれ○をつけてください。

項目	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う
安心して過ごすことができる					
1人で過ごすことができる場所がある					
自分のやってみたいことを応援してくれる					
大切にされていると感じることができる					
ぼーっとすることができる					
どんな話でも聞いてくれる大人がいる					
本音を話すことができる					
いつでも相談にのってくれる大人がいる					
大学生など様々な大人と出会うことができる					
大人から過剰な期待がかけられていると思う					
上から目線の大人がいる					
興味のあることを見つけられそう					
自分のやってみたいことに挑戦ができそう					
周りから必要とされていると思う					
みんなで楽しく軽食やおかしを食べることができる					
お腹いっぱい食べることができる					
スタッフは家のことを気にかけてくれる					

Ⅳ. 学校はあなたにとってどういった場所ですか。当てはまるところにそれぞれ○をつけてください。

項目	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う
安心して過ごすことができる					
1人で過ごすことができる場所がある					
自分のやってみたいことを応援してくれる					
大切にされていると感じることができる					
ぼーっとすることができる					
どんな話でも聞いてくれる大人がいる					
本音を話すことができる					
いつでも相談にのってくれる大人がいる					
大学生など様々な大人と出会うことができる					
大人から過剰な期待がかけられていると思う					
上から目線の大人がいる					
興味のあることを見つけられそう					
自分のやってみたいことに挑戦ができそう					
周りから必要とされていると思う					
みんなで楽しく軽食やおかしを食べることができる					
お腹いっぱい食べることができる					
先生や職員は家のことを気にかけてくれる					

4

いまの自分を知るためのシート⑤

～生活充実度チェック3～

名前

作成日 20 / /

V. 親のことについて教えてください。 当てはまるところにそれぞれ○をつけてください。

項目	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う
親は私の言い分をよく聞いてくれる					
親から話しかけてくれるとうれしい					
親は私の気持ちをよく理解してくれる					
親が病気になる心配になる					
親にはげましてもらおうと元気になる					
親からほめられると嬉しい					
親と一緒にいるときは楽しい					
親は私の将来をとてん気にかけてくれる					
親は家計のことで悩んでいることがある					
親はいつも食事を作ってくれる					

VI. 自分のことについて教えてください。 当てはまるところにそれぞれ○をつけてください。

項目	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも思えない	ややそう思う	そう思う
自分のことが好きだ					
自分は人から必要とされている					
自分のことをだれもわかってくれない					
まわりの人とあまり違わないようにしている					
友だちとの関係はお互い深入りしない					
社会に役立つことをしたい					

VII. 将来のことをどう思っているか教えてください。 当てはまるところにそれぞれ○をつけてください。

項目	そう思わない	あまりそう思わない	どちらとも言えない	ややそう思う	そう思う
私には、だいたいの将来計画がある					
私は、将来結婚をしたい					
私は、将来自分の子どもを育てたい					
私には未来がないような気がする					
私の将来には希望が持てる					
将来のことを考えて今から準備していることがある					
将来のことを大人とよく話をする					
大人になっても地元がいい					
自分の将来は自分でできひらく自信がある					
将来どういった仕事につきたいかがはっきりとしている					
地元を離れて違うところでずっと暮らしたい					

Ⅶ. 将来のことを考えるきっかけになった体験を自由に書いてください。

(中学生用)

いまの自分を知るためのシート⑥ <中学生用>
～自己実現のための進路選択～

名前 _____ 作成日 _____ 20 ____ / ____ / ____

<中学生> 中学卒業後のことや高校卒業後の将来の進路について教えてください。また、あなたの希望に対して、保護者と学校の先生が、どういっているのかを教えてください。なお、わからない場合や、まだ考えていない場合は、○をつけてください。

	中学校卒業後のこと	高校卒業後のこと
あなた	希望を教えてください	希望を教えてください
	わからない／考えたことがない	わからない／考えたことがない
保護者	希望に対してどのように言っていますか	希望に対してどのように言っていますか
	わからない／考えてくれない	わからない／考えてくれない
学校	希望に対してどのように言っていますか	希望に対してどのように言っていますか
	わからない／考えたことがない	わからない／考えたことがない

※ 中学校卒業後、高校卒業後のことについて、あなたの希望を具体的に書いてください。

<進学>

中学校卒業後・・・公立高校、私立高校、普通科、工業や農業等の専門科等

高校卒業後・・・国公立、私立、学部学科、どの地域を希望しているのか（例：東京都、大阪府など）

<就職>

職種、業務内容、どの地域を希望しているのか（例：東北地域、宮城県、札幌、東京、海外など）

書ける場合は、具体的に会社名を書いてください

出典）世田谷区資料

以上